



## 2024年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2023年11月14日

上場会社名 フリュウ株式会社 上場取引所 東  
コード番号 6238 URL <https://www.furyu.jp/>  
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 三嶋 隆  
問合せ先責任者 (役職名) 管理本部 財務経理部 部長 (氏名) 谷 直樹 TEL 03-5728-1761  
四半期報告書提出予定日 2023年11月14日 配当支払開始予定日 —  
四半期決算補足説明資料作成の有無：有  
四半期決算説明会開催の有無：有（機関投資家・証券アナリスト向け）

（百万円未満切捨て）

### 1. 2024年3月期第2四半期の連結業績（2023年4月1日～2023年9月30日）

#### （1）連結経営成績（累計）

（%表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第2四半期	21,083	17.2	2,427	53.2	2,374	50.9	1,583	52.7
2023年3月期第2四半期	17,987	7.5	1,584	△41.0	1,574	△41.6	1,036	△44.3

（注）包括利益 2024年3月期第2四半期 1,765百万円（52.7%） 2023年3月期第2四半期 1,156百万円（△38.1%）

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年3月期第2四半期	59.88	—
2023年3月期第2四半期	37.98	—

#### （2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年3月期第2四半期	28,094	20,913	74.4
2023年3月期	25,932	20,152	77.7

（参考）自己資本 2024年3月期第2四半期 20,913百万円 2023年3月期 20,152百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年3月期	—	0.00	—	38.00	38.00
2024年3月期	—	0.00	—	—	—
2024年3月期（予想）	—	—	—	38.00	38.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 2024年3月期の連結業績予想（2023年4月1日～2024年3月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	42,000	15.4	3,300	54.6	3,300	51.4	2,300	59.3	86.99

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(注) 詳細は、添付資料P. 9「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- |                      |     |
|----------------------|-----|
| ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | : 無 |
| ② ①以外の会計方針の変更        | : 無 |
| ③ 会計上の見積りの変更         | : 無 |
| ④ 修正再表示              | : 無 |

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2024年3月期2Q	28,296,000株	2023年3月期	28,296,000株
② 期末自己株式数	2024年3月期2Q	1,855,989株	2023年3月期	1,855,966株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2024年3月期2Q	26,440,028株	2023年3月期2Q	27,292,186株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) キャッシュ・フローの状況の分析 .....	3
(4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	5
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間 .....	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間 .....	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 .....	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	9
(継続企業の前提に関する注記) .....	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	9
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用) .....	9
(セグメント情報等) .....	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間(2023年4月1日～2023年9月30日)における我が国の経済は、新型コロナウイルス感染症の5類感染症への位置付け変更が実施され、行動制限の緩和や人流の回復など、社会経済活動の正常化がより現実的なものとなりました。海外からの入国制限緩和により外国人観光客も増加し、インバウンド需要回復の後押しもあり、消費活動の持ち直しはより顕著なものとなっております。一方で、欧米諸国との金利差による為替の円安傾向継続、ロシア・ウクライナ情勢の長期化によるエネルギー・原材料価格の高騰など、景気動向は依然として先行き不透明な状況が続いております。

このような環境において当社グループは、企業理念「人々のこころを豊かで幸せにする良質なエンタテインメントを創出する!」のもと、プリントシール事業の拡大、若年女性層の顧客基盤を活用したマネタイズの多様化、キャラクターIP(知的財産)を利用した商品販売に注力し、2024年3月期を初年度とする「中期ビジョン」実現のための取り組みを行いました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の連結業績は、売上高は21,083百万円(前年同期比117.2%)、営業利益は2,427百万円(前年同期比153.2%)、経常利益は2,374百万円(前年同期比150.9%)、親会社株主に帰属する四半期純利益は1,583百万円(前年同期比152.7%)となりました。

セグメント別の経営成績は、次のとおりであります。

なお、第1四半期連結会計期間より、報告セグメントの区分を変更しており、前年同期比較は、前年同期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較しております。詳細は、「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 (4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 (セグメント情報等) 3. 報告セグメントの変更等に関する事項」に記載のとおりであります。

#### (世界観ビジネス)

世界観ビジネスにおきましては、定番キャラクターや、人気漫画作品及び世界的人気ゲーム等の多数のIP権の獲得とその商品化に引き続き注力しました。

商品の生産は主に中国で行っており、ドル建てでの決済が多く、利益面では円安による影響は継続しております。

クレーンゲーム景品は、円安に伴う仕入原価の高騰の影響はあるものの、クレーンゲーム市場拡大と複数の人気IPの商品化に加えて、前述のインバウンド需要の回復も後押しした結果、売上規模は大きく拡大しております。

海外物販は、主要マーケットである中国及びアメリカの受注がまだ低調であり、売上は減少しております。

高価格帯ホビーは、2023年3月に開設したホビーECサイト「FURYU HOBBY MALL(フリーホビーモール)」を通じて、より商品バリエーションを拡張し販売しております。商品の販売状況も好調のため前年を上回る売上となっており、利益面も堅調に推移しております。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は11,704百万円(前年同期比146.5%)、営業利益は1,063百万円(前年同期比338.7%)となりました。

#### (ガールズトレンドビジネス)

プリントシール事業におきましては、新型コロナウイルス感染症がもたらしたライフスタイルの変化は消費者行動にも影響を及ぼしており、プレイ回数は依然としてコロナ禍以前の水準までは回復しておりません。このような厳しい市場環境が続く中、プレイ回数の回復に向けて人気キャラクターの「推し活」をテーマにしたコラボの実施、プリントシール機で撮影した画像をAI似顔絵に変換するイベントの開催など、新規ユーザー獲得のための販促施策を実施しました。以上から、当第2四半期連結累計期間のプレイ回数は1,641万回(前第2四半期連結累計期間は1,647万回)となりました。

プリントシール画像取得・閲覧サービス「ピクトリンク」におきましては、重要なKPIと位置付けている有料会員数は緩やかな回復傾向が継続しており、夏休み期間にプレイ回数が増加する季節要因も重なった結果、2023年9月末時点で147万人(2022年9月末時点は145万人)となりました。今後の当サービスのさらなる成長戦略として、5月にプレミアム会員向けにフォトストレージ・サービス「PiCLINK photos」をリリースし、全会員まで拡大するための準備を進めております。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は7,578百万円(前年同期比103.3%)、営業利益は2,314百万円(前年同期比111.3%)となりました。

## (フリーニュービジネス)

家庭用ゲームソフト事業につきましては、7月発売の新作タイトル「クライマキナ／CRYMACHINA」の販売が好調に推移しており、既存タイトルのダウンロード版や海外販売と合わせて同事業を牽引しました。

ゲームアプリ事業においては、当社が扱う女性向け恋愛シミュレーションゲームの市場が縮小傾向のため、一部タイトルのサービスを終了する一方、今後の顧客層拡大のため、新規タイトルの開発に取り組んでおります。

アニメ事業は、昨年ヒットした映画「ゆるキャン△」のBlu-ray・DVDや同シリーズの関連商品の販売好調に加えて、新作TVアニメ「政宗くんのリベンジR」の配信が売上に大きく貢献しております。

カラーコンタクトレンズ事業につきましては、昨年リニューアルした自社ECサイト「Mew contact(ミューコンタクト)」上で販売促進施策を継続するとともに、サイトの顧客利便性改善も並行して実施することで、引き続き顧客流入数を増加する取り組みを進めてまいります。

データ広告事業につきましては、既存取引先の受注額減少に伴い、売上は前年より減少しましたが、新規顧客獲得のための営業活動に注力し、収益力の向上に努めております。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は1,800百万円(前年同期比67.7%)、営業損失は153百万円(前年同期は21百万円の営業損失)となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

当第2四半期連結会計期間末の財政状態は、総資産が28,094百万円、負債が7,181百万円、純資産が20,913百万円となりました。また、自己資本比率は74.4%となりました。

## (資産)

資産につきましては、前連結会計年度末に比べ2,162百万円増加し、28,094百万円となりました。これは主に受取手形及び売掛金の増加110百万円、電子記録債権の増加583百万円、棚卸資産の増加1,295百万円、流動資産のその他の増加420百万円があった一方で、現金及び預金の減少118百万円、有形固定資産の減少183百万円があったことによるものであります。

## (負債)

負債につきましては、前連結会計年度末に比べ1,401百万円増加し、7,181百万円となりました。これは主に買掛金の増加429百万円、未払法人税等の増加737百万円、流動負債のその他の増加267百万円があった一方で、電子記録債務の減少88百万円があったことによるものであります。

## (純資産)

純資産につきましては、前連結会計年度末に比べ760百万円増加し、20,913百万円となりました。これは主に親会社株主に帰属する四半期純利益計上に伴う利益剰余金の増加1,583百万円があった一方で、配当金の支払いによる利益剰余金の減少1,004百万円があったことによるものであります。

## (3) キャッシュ・フローの状況の分析

当第2四半期連結累計期間の現金及び現金同等物は、営業活動による収入が1,816百万円、投資活動による支出が933百万円、財務活動による支出が1,006百万円となった結果、前連結会計年度末に比べ118百万円減少し10,682百万円となりました。

## (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動においては、税金等調整前四半期純利益を2,374百万円、減価償却費を954百万円計上しました。また、売上債権は693百万円増加、棚卸資産は1,295百万円増加、仕入債務は341百万円増加となりました。その結果、営業活動によるキャッシュ・フローは、1,816百万円の収入(前第2四半期連結累計期間は204百万円の支出)となりました。

## (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動においては、有形固定資産の取得による支出が635百万円、無形固定資産の取得による支出が240百万円、差入保証金の差入による支出が66百万円となりました。その結果、投資活動によるキャッシュ・フローは、933百万円の支出(前第2四半期連結累計期間は957百万円の支出)となりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動においては、セール・アンド・リースバックによる収入が653百万円、リース債務の返済による支出が655百万円、配当金の支払額が1,004百万円となりました。その結果、財務活動によるキャッシュ・フローは、1,006百万円の支出（前第2四半期連結累計期間は1,929百万円の支出）となりました。

(4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、2023年11月14日公表の「通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」の通り修正しております。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	10,800,352	10,682,335
受取手形及び売掛金	4,250,802	4,360,807
電子記録債権	1,293,139	1,876,678
棚卸資産	2,422,466	3,718,460
その他	2,099,819	2,520,288
貸倒引当金	△5,422	△1,385
流動資産合計	20,861,156	23,157,183
固定資産		
有形固定資産	2,665,613	2,482,527
無形固定資産	667,939	743,985
投資その他の資産		
その他	1,755,785	1,729,354
貸倒引当金	△18,332	△18,332
投資その他の資産合計	1,737,452	1,711,021
固定資産合計	5,071,005	4,937,534
資産合計	25,932,162	28,094,718
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	734,435	1,164,081
電子記録債務	1,565,204	1,476,625
未払法人税等	100,180	837,318
受注損失引当金	182,815	193,752
その他	2,911,638	3,179,187
流動負債合計	5,494,273	6,850,965
固定負債		
退職給付に係る負債	278,350	323,456
その他	6,996	6,920
固定負債合計	285,347	330,377
負債合計	5,779,620	7,181,342
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,639,216	1,639,216
資本剰余金	1,614,716	1,614,716
利益剰余金	19,024,692	19,603,123
自己株式	△2,000,368	△2,000,402
株主資本合計	20,278,255	20,856,652
その他の包括利益累計額		
繰延ヘッジ損益	△59,116	119,470
退職給付に係る調整累計額	△66,597	△62,747
その他の包括利益累計額合計	△125,713	56,722
純資産合計	20,152,541	20,913,375
負債純資産合計	25,932,162	28,094,718

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
売上高	17,987,848	21,083,070
売上原価	9,864,662	12,345,685
売上総利益	8,123,186	8,737,385
販売費及び一般管理費	6,538,285	6,309,453
営業利益	1,584,900	2,427,931
営業外収益		
受取利息	3	4
助成金収入	21	534
補助金収入	5,196	—
投資事業組合運用益	8,318	5,177
敷金及び保証金清算益	9,909	—
その他	166	1,637
営業外収益合計	23,614	7,355
営業外費用		
支払利息	108	103
為替差損	34,335	60,547
その他	53	63
営業外費用合計	34,497	60,713
経常利益	1,574,016	2,374,573
特別利益		
固定資産売却益	74	29
特別利益合計	74	29
特別損失		
固定資産除売却損	3,811	0
特別損失合計	3,811	0
税金等調整前四半期純利益	1,570,280	2,374,603
法人税等	533,735	791,450
四半期純利益	1,036,545	1,583,152
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,036,545	1,583,152



(四半期連結包括利益計算書)  
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
四半期純利益	1,036,545	1,583,152
その他の包括利益		
繰延ヘッジ損益	116,200	178,586
退職給付に係る調整額	3,426	3,849
その他の包括利益合計	119,626	182,436
四半期包括利益	1,156,172	1,765,589
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,156,172	1,765,589

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	1,570,280	2,374,603
減価償却費	1,124,337	954,445
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	725	△4,037
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	48,238	48,955
受取利息及び受取配当金	△3	△4
支払利息	108	103
為替差損益 (△は益)	△3,373	△5,559
固定資産除売却損益 (△は益)	3,736	△29
売上債権の増減額 (△は増加)	△123,453	△693,544
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△899,757	△1,295,993
未収入金の増減額 (△は増加)	23,303	△42,458
前渡金の増減額 (△は増加)	△287,419	△44,032
仕入債務の増減額 (△は減少)	13,724	341,066
未払金の増減額 (△は減少)	△136,498	41,810
未払費用の増減額 (△は減少)	366,721	△101,655
その他	△871,142	309,152
小計	829,525	1,882,821
利息及び配当金の受取額	3	4
利息の支払額	△108	△103
法人税等の支払額	△1,033,704	△73,279
法人税等の還付額	—	7,043
営業活動によるキャッシュ・フロー	△204,284	1,816,486
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△741,686	△635,724
有形固定資産の売却による収入	704	30
無形固定資産の取得による支出	△208,650	△240,006
差入保証金の差入による支出	△23,690	△66,156
その他	16,269	8,644
投資活動によるキャッシュ・フロー	△957,053	△933,213
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
セール・アンド・リースバックによる収入	1,004,306	653,196
リース債務の返済による支出	△1,013,636	△655,290
配当金の支払額	△1,422,732	△1,004,721
自己株式の取得による支出	△497,069	△34
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,929,131	△1,006,849
現金及び現金同等物に係る換算差額	3,373	5,559
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△3,087,094	△118,017
現金及び現金同等物の期首残高	14,662,406	10,800,352
現金及び現金同等物の四半期末残高	11,575,311	10,682,335

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	世界観ビジネス	ガールズトレンド ビジネス	フリーニュー ビジネス	計		
売上高						
外部顧客への売上高	7,991,900	7,336,302	2,659,646	17,987,848	—	17,987,848
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	7,991,900	7,336,302	2,659,646	17,987,848	—	17,987,848
セグメント利益又は損失 (△)	314,055	2,079,943	△21,424	2,372,574	△787,674	1,584,900

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△787,674千円には、セグメント間取引1,200千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△788,874千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

Ⅱ 当第2四半期連結累計期間（自 2023年4月1日 至 2023年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	世界観ビジネス	ガールズトレンドビジネス	フリーニュー ビジネス	計		
売上高						
外部顧客への売上高	11,704,176	7,578,646	1,800,247	21,083,070	—	21,083,070
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	11,704,176	7,578,646	1,800,247	21,083,070	—	21,083,070
セグメント利益又は損失 (△)	1,063,675	2,314,739	△153,663	3,224,751	△796,819	2,427,931

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△796,819千円には、セグメント間取引1,920千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△798,739千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間より、2024年3月期を初年度とする「中期ビジョン」を達成するために、ビジネスモデルを軸としたマネジメント体制に変更し、さらなる企業成長及び企業価値向上を目指しております。それに伴い、報告セグメントを従来の「プリントシール」「コンテンツ・メディア」「キャラクタ・マーチャンダイジング」「ゲーム」の4区分から、「世界観ビジネス」「ガールズトレンドビジネス」「フリーニュービジネス」の3区分に変更しております。

なお、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後のセグメント区分に基づき作成したものを記載しております。